

スーパーマーケット販売統計調査資料

2019年2月実績 速報版(パネル270)

1月実績 確報版(パネル270)

(2019年3月22日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m²あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2019年3月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2019年2月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	82,060,605	100.0%	98.8%	97.8%
食品合計	74,558,384	90.9%	98.9%	97.8%
生鮮3部門合計	28,246,390	34.4%	97.5%	96.4%
青果	11,554,286	14.1%	94.7%	93.7%
水産	7,106,931	8.7%	99.8%	98.7%
畜産	9,585,173	11.7%	99.4%	98.2%
惣菜	8,531,709	10.4%	100.3%	99.0%
日配	15,933,217	19.4%	98.9%	97.7%
一般食品	21,847,068	26.6%	100.3%	99.3%
非食品	5,334,655	6.5%	97.2%	97.3%
その他	2,167,614	2.6%	101.6%	101.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,240,594	43	99.2%	98.1%
関東地方	30,219,606	73	99.3%	98.2%
中部地方	10,100,255	53	98.3%	97.2%
近畿地方	18,025,975	44	98.2%	97.5%
中国・四国地方	8,054,379	34	98.2%	96.9%
九州・沖縄地方	4,419,796	23	98.8%	98.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	577,351	45	92.5%	93.2%
4~10店舗	3,682,637	74	97.2%	97.2%
11~25店舗	9,018,057	62	97.8%	97.7%
26~50店舗	14,772,392	45	98.5%	97.5%
51店舗以上	54,010,168	44	99.2%	97.9%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	79,386,778	
総店舗数 (店舗)	7,946	店舗平均月商 (万円)	10,327	
総売場面積 (㎡)	13,169,661	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.2	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年3月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2019年1月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,524,133	100.0%	99.0%	97.9%
食品合計	78,821,345	90.1%	99.1%	98.1%
生鮮3部門合計	30,730,079	35.1%	97.8%	96.7%
青果	12,169,290	13.9%	94.9%	94.0%
水産	8,042,336	9.2%	100.1%	99.0%
畜産	10,518,453	12.0%	99.5%	98.4%
惣菜	9,001,138	10.3%	101.5%	100.1%
日配	16,807,199	19.2%	99.2%	98.1%
一般食品	22,282,930	25.5%	100.0%	99.1%
非食品	6,264,173	7.2%	98.0%	98.0%
その他	2,438,660	2.8%	100.1%	94.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,840,730	43	99.6%	98.3%
関東地方	31,985,735	73	98.8%	97.5%
中部地方	10,747,288	53	99.4%	98.6%
近畿地方	19,743,999	44	99.1%	98.7%
中国・四国地方	8,504,369	34	98.2%	96.9%
九州・沖縄地方	4,702,011	23	98.5%	96.0%

保有店舗数別集計

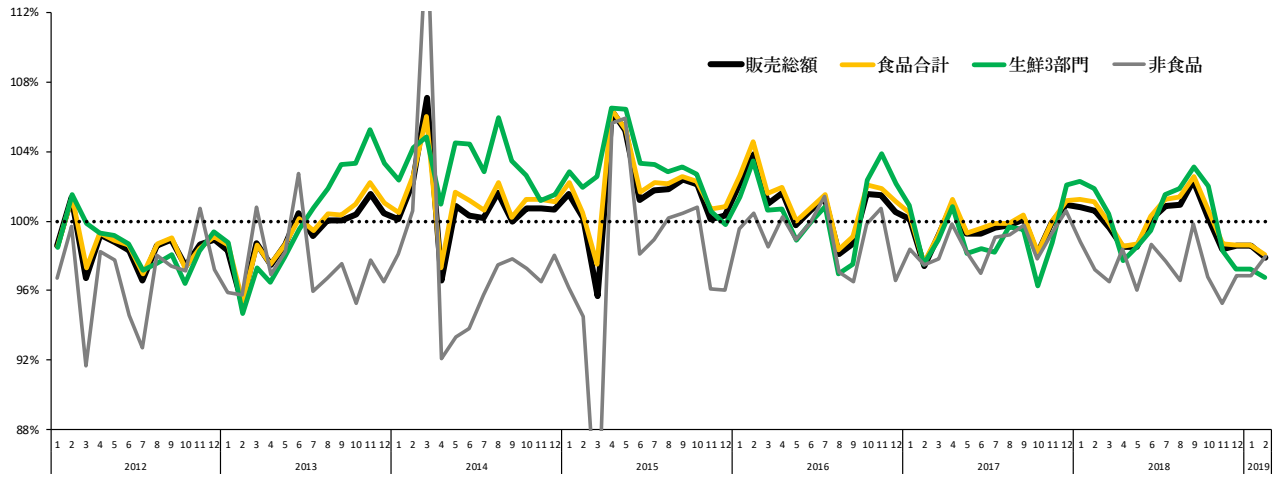
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	617,448	45	92.7%	94.0%
4~10店舗	3,760,801	73	97.8%	97.5%
11~25店舗	9,572,608	63	98.2%	97.6%
26~50店舗	15,271,295	45	98.8%	98.3%
51店舗以上	58,301,982	44	99.3%	97.9%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,278,138	
総店舗数 (店舗)	7,963	店舗平均月商 (万円)	10,991	
総売場面積 (㎡)	13,185,032	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.6	

※売上高は税抜金額

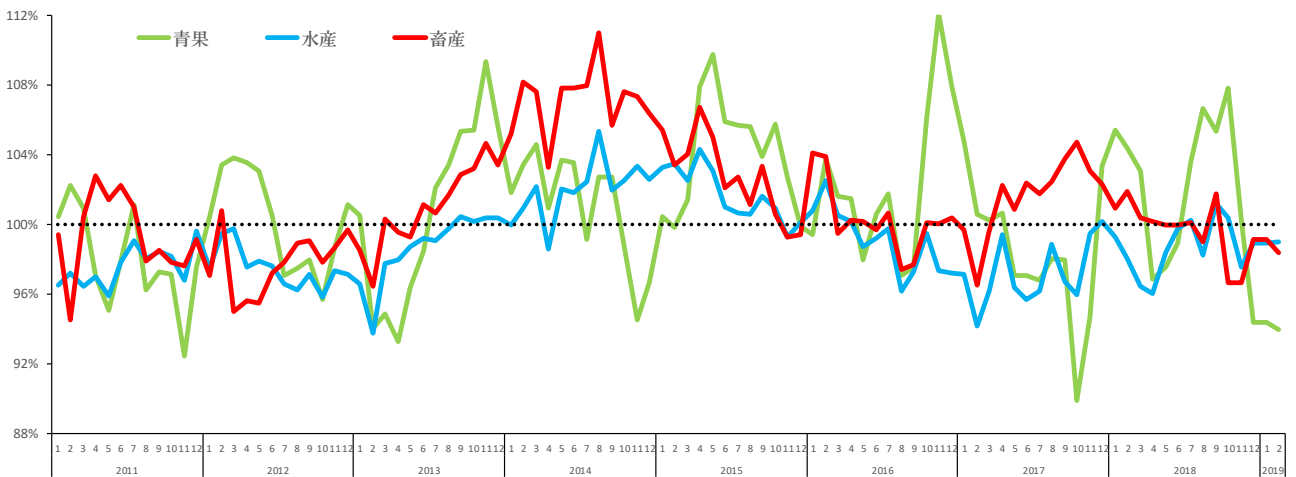
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

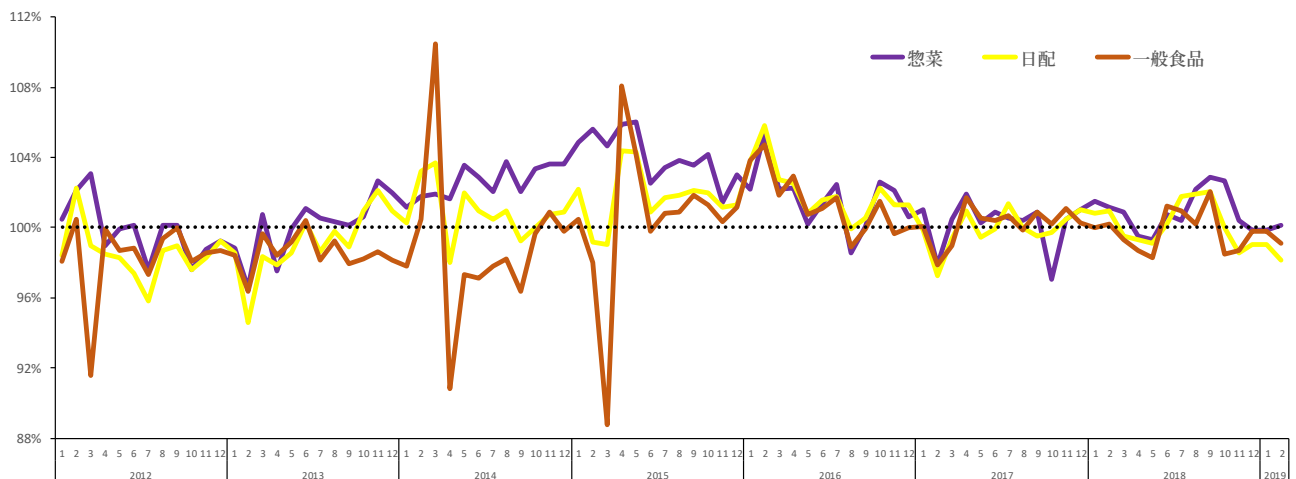
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2019年1月までは確報版による前年同月比、2019年2月は速報版による前年同月比

2019年2月エリア別気候状況

1. 2月気温の特徴：全国的に高く、沖縄・奄美では記録的な高温となった

上旬：北日本で低かった。一方、東・西日本と沖縄・奄美でかなり高かった。

中旬：沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。

下旬：北日本と沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。

2018年2月との比較：上旬は西日本を中心に前年よりかなり高く、下旬は東日本を中心にかなり高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2019年2月			2018年2月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	-1.6	0.6	2.8	0.7	-1.4	-1.9	-2.3	2.0	4.7
東北地方	0.5	0.5	2.7	0.1	-1.4	-1.8	0.4	1.9	4.5
関東甲信地方	1.7	0.8	2.9	-1.1	0.0	0.1	2.8	0.8	2.8
北陸地方	1.6	0.7	2.2	-1.3	-1.4	-0.6	2.9	2.1	2.8
東海地方	2.0	1.1	3.1	-1.7	-0.7	0.7	3.7	1.8	2.4
近畿地方	2.2	0.9	2.5	-2.1	-1.1	0.8	4.3	2.0	1.7
中国地方	2.1	0.9	2.2	-2.8	-1.3	0.7	4.9	2.2	1.5
四国地方	2.3	0.8	2.0	-3.0	-1.5	0.9	5.3	2.3	1.1
九州北部	2.4	0.4	2.3	-3.0	-1.4	0.4	5.4	1.8	1.9
九州南部・奄美地方	2.8	0.6	2.0	-2.9	-1.1	0.0	5.7	1.7	2.0

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

2. 2月日照時間の特徴：東・西日本太平洋側で少なかった。北日本、東・西日本日本海側では平年並だ

上旬：北・西日本と東日本太平洋側で少なかった。一方、東日本日本海側と沖縄・奄美で多かった

中旬：東・西日本で少なかった。一方、北日本と沖縄・奄美では平年並だった。

下旬：北・東日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。一方、東・西日本太平洋側で少なかった。

2018年2月との比較：月を通じて前年よりやや少ない日照時間となった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年2月			2018年2月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	72	97	137	98	77	115	-26	20	22
東北地方	90	86	139	138	96	126	-48	-10	13
関東甲信地方	92	93	87	101	135	87	-9	-42	0
北陸地方	102	59	152	121	103	141	-19	-44	11
東海地方	89	84	90	109	133	109	-20	-49	-19
近畿地方	95	78	111	130	135	129	-35	-57	-18
中国地方	87	75	130	121	136	125	-34	-61	5
四国地方	84	84	93	98	112	119	-14	-28	-26
九州北部	92	93	87	82	104	126	10	-11	-39
九州南部・奄美地方	84	69	72	86	116	114	-2	-47	-42

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

3. 2月降水量の特徴：北日本と東日本日本海側で少なく、九州南部と沖縄・奄美で多かった

上旬：北・西日本と沖縄・奄美で多かった。一方、東日本日本海側で少なかった。

中旬：北日本でかなり少なく、東日本太平洋側で少なかった。一方、沖縄・奄美で多かつた。

下旬：北日本と東日本日本海側でかなり少なく、西日本日本海側で少なかった。一方、沖縄・奄美で多かった。

2018年2月との比較：上旬は全国的に少なく、中旬は北日本で少なく、西日本で前年より多い降水量となった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2019年2月			2018年2月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	179	37	10	149	145	68	30	-108	-58
東北地方	107	58	18	121	116	46	-14	-58	-28
関東甲信地方	68	33	111	97	6	13	-29	27	98
北陸地方	68	81	14	163	109	0	-95	-28	14
東海地方	106	62	97	83	4	18	23	58	79
近畿地方	104	90	63	155	16	33	-51	74	30
中国地方	84	106	45	148	0	47	-64	106	-2
四国地方	178	113	63	224	17	84	-46	96	-21
九州北部	162	102	65	100	0	106	62	102	-41
九州南部・奄美地方	150	142	166	125	57	120	25	85	46

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「2月の気候」参照

平年値は過去30年(1981年~2010年)の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2019年3月調査結果（2月実績）
（2019年3月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

3月調査（2月実績）結果概況

景気判断DIは小幅に改善も

2月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は前月から+0.5の40.3、見通し判断は前月から+1.5の40.9となり、前月より小幅に改善し、ひとまず下げ止まりをみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に4ヵ月連続で二桁マイナス圏を記録するなど厳しい結果となった。青果の相場安が続き、生鮮仕入原価DIは-5.5とマイナス圏で推移しており、客単価DIは-10.7と低下した。また、来客数DIも前月と同水準の-14.0とマイナス圏での低迷が続いていることが影響している。

カテゴリー動向調査では、青果相場安に加え、前年より高い気温により、鍋用商材を中心に不振となり、青果DIが-24.4と特に大きなマイナスを記録した。畜産DIや日配DIにも同様の影響を受けており共に二桁マイナスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、前月の大幅な悪化から今月は一旦下げ止まった。しかし昨年10月以降の悪化により、中長期トレンドはすべて下向きでの推移が続いている。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

今回の景況感の悪化は、昨年秋以降の青果相場安が起因し、客単価DIと来客数DIがともにマイナスとなる厳しい経営環境が続いている。また国内景気も踊り場に差し掛り、外部消費環境に明るい展望を見いだせないなかで、競合との価格競争によるパイの奪い合いという悪いスパイラルの動きもみられる。一方で、健康報道により一部食品に特需が相次いでみられているように、価値訴求による消費行動は活発となっている。外部環境が逆風である足元では、消費者の食品ニーズをつかみ、さらには喚起する取り組みの重要性が高まっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 40.3 (+0.5) 前月：39.8	消費者購買意欲DI 当月： 41.1 (+0.5) 前月：40.6	周辺地域 競合状況DI 当月： 38.8 (-0.9) 前月：39.7	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 43.5 (+0.2) 前月：43.3
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 40.9 (+1.5) 前月：39.4	消費者購買意欲DI 当月： 41.8 (+1.1) 前月：40.7	周辺地域 競合状況DI 当月： 38.2 (-0.2) 前月：38.4	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 43.8 (+0.9) 前月：42.9
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月： -18.1 (-2.1) 前月：-16.0	客単価DI 当月： -10.7 (-2.8) 前月：-7.9	来客数DI 当月： -13.9 (-0.7) 前月：-13.2	
収益DI 当月： -15.3 (-3.2) 前月：-12.1	販売価格DI 当月： -2.9 (+1.5) 前月：-4.4	生鮮品仕入原価DI 当月： -5.5 (+1.2) 前月：-6.7	食品仕入原価DI 当月： 1.8 (+1.1) 前月：0.7

カテゴリー動向

青果DI 当月： -24.4 (-0.2) 前月：-24.2	水産DI 当月： -5.2 (-0.2) 前月：-5.0	畜産DI 当月： -13.0 (-1.3) 前月：-11.7	
惣菜DI 当月： -7.0 (-4.6) 前月：-2.4	日配DI 当月： -14.1 (-0.2) 前月：-13.9	一般食品DI 当月： -7.6 (+0.7) 前月：-8.3	非食品DI 当月： -12.1 (-1.8) 前月：-10.3

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

3月調査（2月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

4ヵ月続けて二桁マイナスを記録し低迷続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	18.3	42.5	24.7	14.0	0.5	-16.0
売上高 (当月)	20.5	44.0	23.5	11.4	0.6	-18.1



2. 収益DI

4ヵ月続けて二桁マイナスを記録し低迷続く

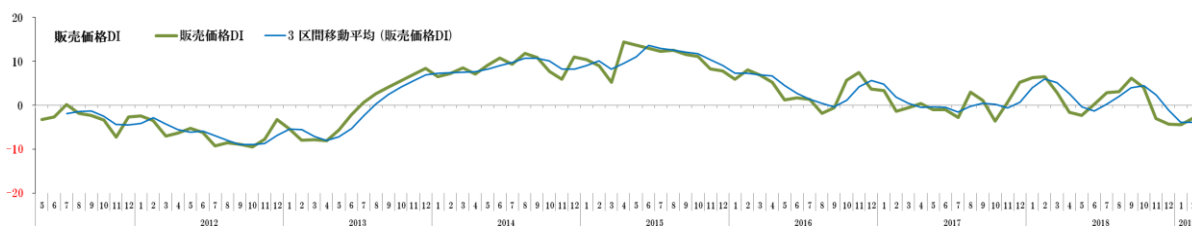
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	14.8	41.2	24.2	17.0	2.7	-12.1
収益 (当月)	16.7	40.7	30.9	10.5	1.2	-15.3



3. 販売価格DI

小幅なマイナス圏での横ばい推移

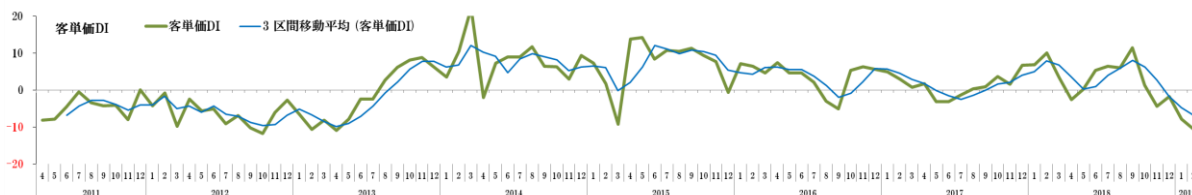
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	1.1	26.3	61.8	10.8	0.0	-4.4
販売価格 (当月)	1.2	23.6	60.6	14.5	0.0	-2.9



4. 客単価DI

マイナス幅を拡大し、二桁マイナス水準まで低下

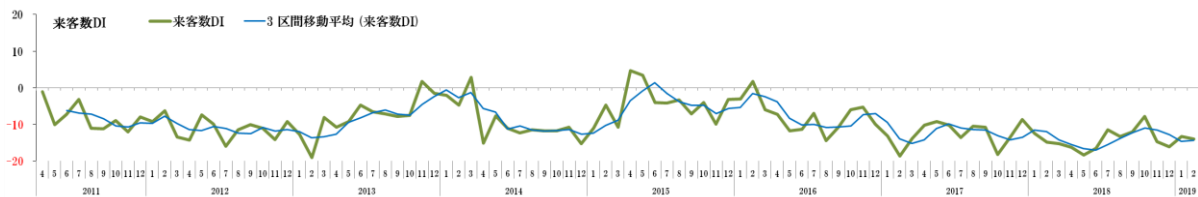
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.1	43.0	42.5	13.4	0.0	-7.9
客単価 (当月)	5.5	45.7	34.8	14.0	0.0	-10.7



5. 来客数 DI

二桁マイナス圏での低迷続く

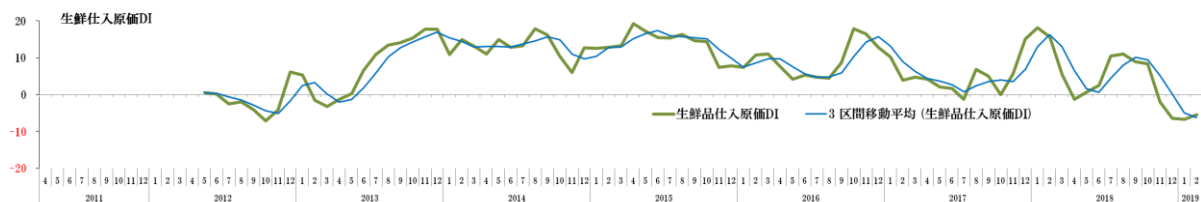
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	16.2	38.9	28.1	15.1	1.6	-13.2
来客数 (当月)	11.5	49.7	24.2	12.1	2.4	-13.9



6. 生鮮仕入原価 DI

4 カ月連続でマイナス圏での推移

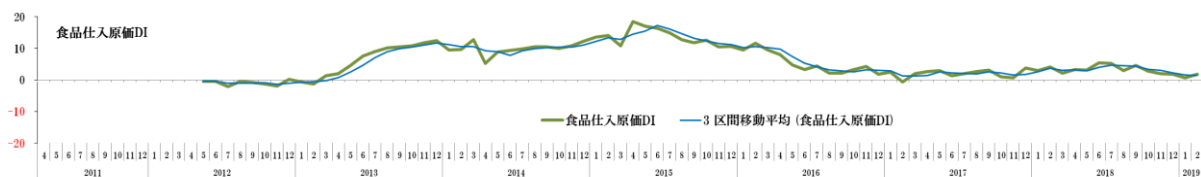
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	7.1	29.9	46.2	16.3	0.5	-6.7
生鮮仕入原価 (当月)	4.4	30.0	49.4	15.6	0.6	-5.5



7. 食品仕入原価 DI

小幅プラス圏での横ばいでの推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.2	10.3	67.6	18.4	0.5	0.7
食品仕入原価 (当月)	3.1	13.5	57.1	25.8	0.6	1.8

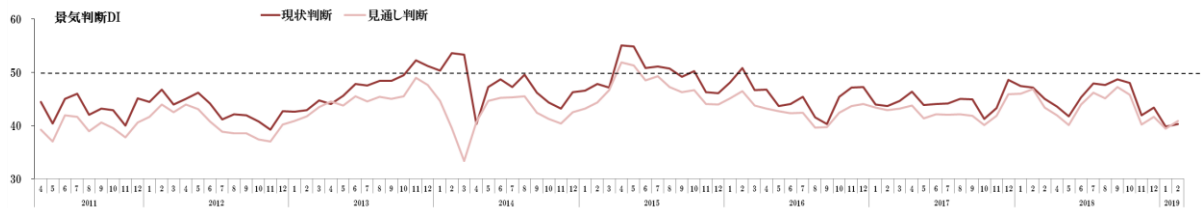


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

小幅に改善も過去最低水準での推移

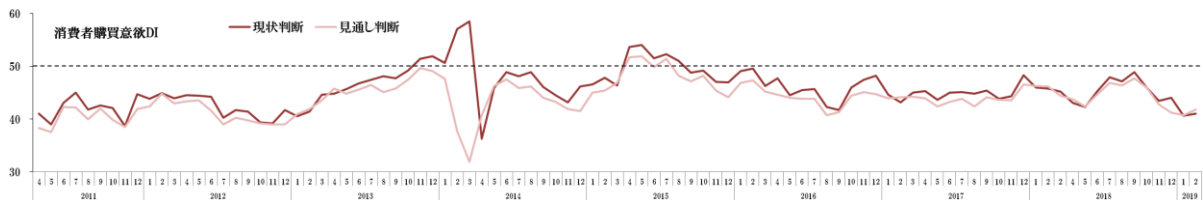
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	5.3	34.2	56.1	4.3	0.0	39.8
【現状】景気判断 (当月)	4.8	35.2	54.5	4.8	0.6	40.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	5.9	34.9	54.8	4.3	0.0	39.4
【見通し】景気判断 (当月)	6.7	31.5	53.9	7.3	0.6	40.9



2. 消費者購買意欲 DI

小幅に改善し下げ止まりを見せる

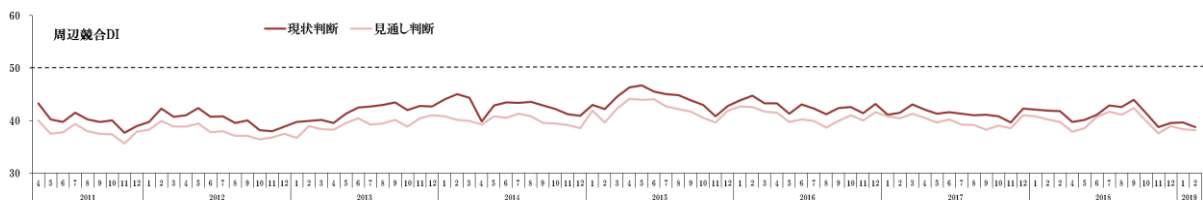
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.2	38.2	54.8	4.8	0.0	40.6
【現状】購買意欲 (当月)	1.8	37.6	55.2	5.5	0.0	41.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.7	36.6	55.9	4.8	0.0	40.7
【見通し】購買意欲 (当月)	1.8	34.1	59.1	4.9	0.0	41.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に大きな変化はみられず

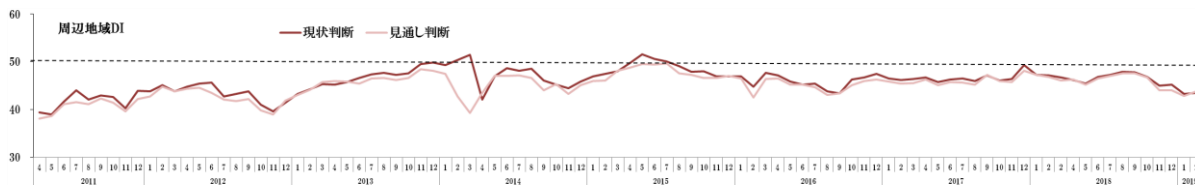
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	5.9	31.7	60.2	2.2	0.0	39.7
【現状】競合状況 (当月)	5.5	36.4	55.8	2.4	0.0	38.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	6.5	35.5	55.9	2.2	0.0	38.4
【見通し】競合状況 (当月)	7.9	35.8	52.1	4.2	0.0	38.2



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

小幅に改善し下げ止まりを見せる

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	2.2	23.7	73.1	1.1	0.0	43.3
【現状】地域景気(当月)	0.6	25.3	73.5	0.6	0.0	43.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	2.2	24.7	72.6	0.5	0.0	42.9
【見通し】地域景気(当月)	1.2	24.1	72.8	1.9	0.0	43.8



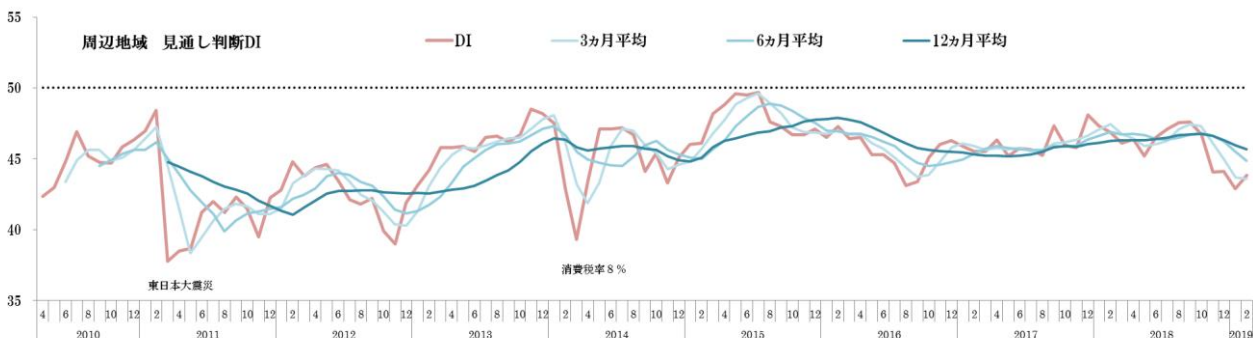
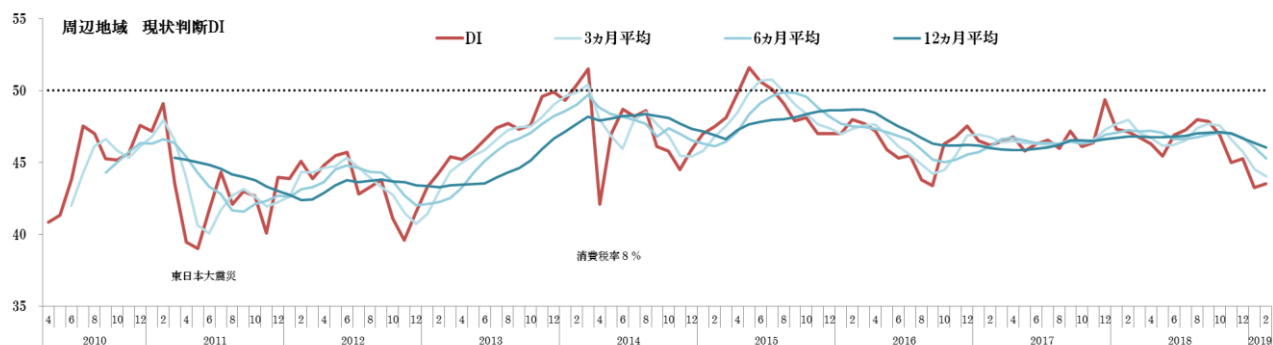
※長期傾向 (2010年4月～)

11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。

14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。

しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は持ち直し改善傾向が続いた。

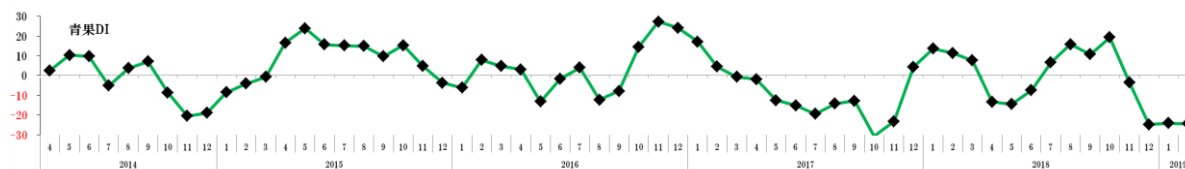
10月から再び悪化幅を広がり、11月にはすべての移動平均線がマイナス方向に転換し、以降弱含みの推移が続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-24.4（かなり不調）

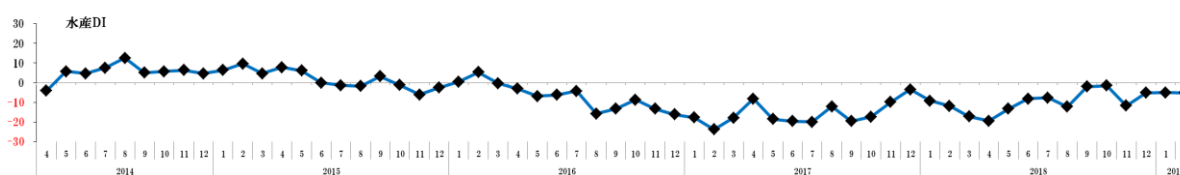
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	35.6	37.9	16.4	7.9	2.3	-24.2
青果（当月）	36.9	35.0	18.1	8.8	1.3	-24.4



前月同様、白菜や大根など大型野菜を中心として相場安が続いており、加えて前年の相場高騰からの反動も加わり、単価が大幅減となった影響を受けた。また前年より気温がかなり高く鍋物関連野菜の動きが悪くなった。サラダ関連やカット野菜も伸び悩んだがトマトは比較的好調となった。春物野菜（グリーンピース・スナップエンドウ）、健康報道のあった玉ねぎや舞茸などが好調とのコメントがみられた。果物類は好調となっており、前年高騰により不調であったみかんをはじめ、イチゴ、りんご、輸入果物ではキウイフルーツの動きがよかった。

2. 水産DI：-5.2（やや不調）

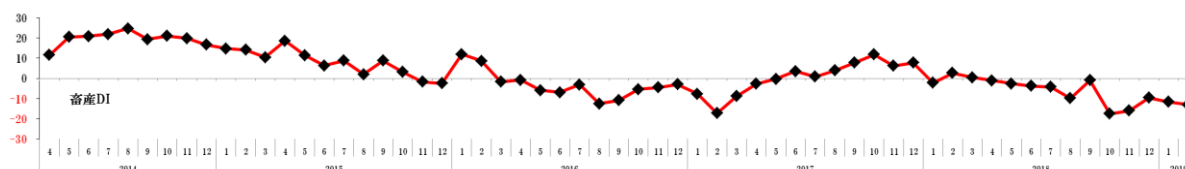
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	11.4	29.1	30.9	25.1	3.4	-5.0
水産（当月）	11.3	28.8	32.5	24.4	3.1	-5.2



前年より高い気温により鍋物用食材（ぶりやタラなど）の不振が続いたものの、牡蠣は好調となった店舗もみられた。節分の恵方巻きや手巻き寿司用は前年並みから好調となった。刺身類は中旬以降伸び悩んだ店舗が多い。健康報道の影響もあり、海藻類やさばは好調であったが、寒ブリは不調とするコメントが多い。

3. 畜産DI：-13.0（不調）

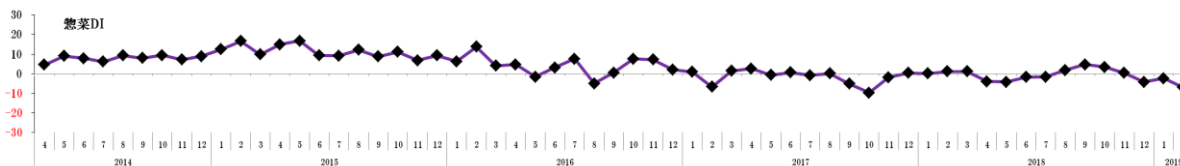
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	14.6	38.2	28.1	17.4	1.7	-11.7
畜産（当月）	13.7	41.0	30.4	13.7	1.2	-13.0



前年より気温が高く、鍋物用を中心に動きが悪かった。牛肉は焼肉やステーキ用などが焼きメニューが堅調であるが、和牛と輸入牛に消費が二極化する傾向がみられた。競合との価格競争を指摘するコメントがみられた。豚肉は相場が下落傾向にあり販売数量が好調となった店舗が多いが、豚コレラ発生の影響を受けた地域もあった。鶏肉は前年並み、ハムやソーセージなどの加工肉はやや持ち直しをみせた店舗もみられた。

4. 惣菜DI：-7.0（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜 (前月)	7.4	26.3	37.7	25.7	2.9	-2.4
惣菜 (当月)	8.9	31.8	39.5	17.8	1.9	-7.0



気温が高く、比較的天候に恵まれたため、弁当やおにぎりなどが好調に推移した。恵方巻き商戦は曜日めぐりがよく前年並みから好調とのコメントが多いが、予約販売を中心するなど廃棄ロス削減に苦心した店舗もみられた。旬の食材を使った季節感や加工度の高い惣菜の動きがよいとのコメントが多くみられた。前年青果相場の高騰により好調であったサラダ関連は反動で不振となった。人手不足により新商品開発などが十分に行えないことへの不安もみられた。

5. 日配DI：-14.1（不調）

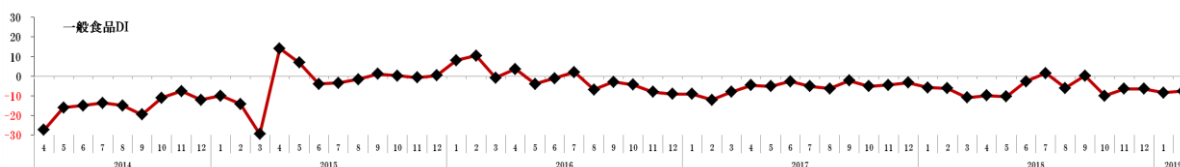
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配 (前月)	14.6	38.8	34.8	11.2	0.6	-13.9
日配 (当月)	14.3	39.1	35.4	11.2	0.0	-14.1



前年より高い気温により、鍋おでん商材関連、特に豆腐やこんにやくなどの和日配や麺類などのホットメニューの動きが悪かった。機能性ヨーグルトは好不調がわかれた。健康報道により納豆、甘酒、梅干しには特需が続いている。さらに TV 報道があったチーズを好調とするコメントが多い。牛乳やチャルド飲料や比較的好調となったが、冷凍食品やパン類は不調となった。

6. 一般食品：-7.6（やや不調）

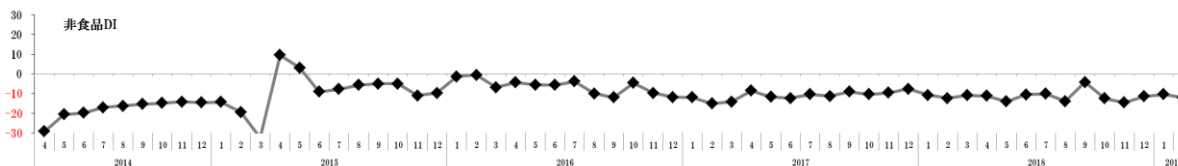
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品 (前月)	11.2	30.9	39.9	15.7	2.2	-8.3
一般食品 (当月)	8.6	33.3	40.1	15.4	2.5	-7.6



前年より高い気温により鍋用調味料やホット商材の動きが悪い状況が継続しているが、飲料類は堅調に推移した。バレンタイン商戦は好調とするコメントが多かった。報道によりサバ缶やえごま油などの食油、リンゴ酢、もち麦などの雑穀類に特需が継続している。また NHK ドラマの影響で乾麺も好調となっている。単価の下落傾向がみられた米類はやや伸び悩んでいる。酒類はウイスキーが好調とのコメントが多い。ドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争の厳しさへの指摘が目立った。

7. 非食品 DI：-12.1（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	12.8	33.7	36.0	16.9	0.6	-10.3
非食品（当月）	14.6	34.4	37.6	11.5	1.9	-12.1



前年より高い気温により衣料品やカイロなどの季節品は不調となった。紙類も値上げの影響を受け低迷した店舗が多い。タバコは値上げ後の落ち込みから回復傾向がみられた。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調 ： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2019年3月調査（2月実績）キーワード TOP3

1. 青果相場安
2. 前年より気温が高い
3. 競合との価格競争

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

2月実績速報版 166社
 1月実績確報版 187社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp